

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	市内公園を活用したコミュニティガーデンの創出
事業実施者	act634 府中、都市整備部公園緑地課
事業目的	公園や街の美化を「自分ごと」として捉える市民を増やす。公園を地域のコミュニティを再生・創出していく場として再生する仕組みづくりを行う。
事業内容	宮町中央公園をモデル公園とし府中コミュニティガーデン講座を実施する。
事業目標	講座を通じて、今後市内にコミュニティガーデンを広げていく人材育成及び仕組みを構築する。

1 評価結論	S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。
	明確な事業目的を市と団体の間で共有できており、自治会など近隣住民の理解のもと、団体の強みを生かした事業内容で地域に貢献することができた。市は公園の施設管理や広報の面で柔軟かつ積極的に協力することができた。令和5年度については市で予算化され、同様の事業が予定されていることから今後も発展が期待できる。
2 事業について	コミュニティガーデンを通じて参加者が地域とつながる機会を創出したほか、宮町中央公園では、花壇の管理が行き届いたことによりゴミの減少や、公園利用者の増加といった効果があり、地域に対しても有益な結果をもたらすことができた。
3 協働の視点について	実施にあたっては近隣住民の理解が不可欠であるが、事前に自治会に出向いて説明をし、理解が得られた。団体が持つ植物に関する知識や、講座・シンポジウムの企画能力を中心に、市が発信力を生かした広報などで協力することができた。市と団体間でのコミュニケーションについて、状況にあったツールを柔軟に用いたことでスムーズな意思疎通ができ、双方の立場を理解しながら事業を進めることができた。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	定期的な講座の実施により、市民が知識やノウハウを持ち帰り、公園や街の美化を自分ごととして捉える意識の定着に繋がった。また実績が認められたことにより、令和5年度には市での予算化が実現し、四谷地域での実施が予定されており、事業の更なる発展が期待できる。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	ウィキペディアタウン in 府中
事業実施者	府中まちコム舎、ボーイスカウト府中第1団、文化スポーツ部図書館
事業目的	図書館の豊富な機能と郷土資料を活用し、市民の手でウィキペディアを編集し、府中の魅力を世界に発信する。
事業内容	ファシリテーターを公募しキックオフミーティングを実施、コミュニケーションツールとして SNS(ラインワークス)を運用、ワークショップを実施、ウィキペディアタウン in 府中を実施。
事業目標	ウィキペディアの府中市関連項目を編集することで、市内外問わず、広く一般に府中市について知ってもらうとともに、地域の次世代に府中市の歴史や文化を継承してもらう。また、図書館のレファレンスサービスの活用を促進し、利用者を継続的に増やす。

1 評価結論	C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
	事業内容は興味深く、参加した市民からも好評を得たが、市と団体間での事業の継続実施という長期的な目標の共有ができず、また連絡体制の構築に課題が残り、協働によるメリットを十分に得ることができなかった。
2 事業について	市民の手でウィキペディアを編集し、府中の魅力を発信するという事業内容は興味深かったが、事業の実施目的が図書館のリニューアルイベントとして単発で実施するものか、継続を目指すものかという点で認識に違いがあったように見受けられた。
3 協働の視点について	府中まちコム舎の IT に関する知識、ボーイスカウト府中第1団のまち歩きに活かせる知識、図書館の郷土資料という三者の特長を活かした体制だったが、ファシリテーターや当日の一般参加者といった多くの関係者を巻き込みながら事業を進めるにあたって、主催者側に必要とされる綿密なすり合わせができず、信頼関係を十分に構築することができなかった。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	参加者の満足度は高かったが、単発のイベントとしての色が強く、団体が希望しているような継続的な実施を見据えた支援を市ができていないようだった。今後ファシリテーターなど別の主体が同様の事業を展開する機会があった場合、今回得た課題の共有やファシリテーターへの支援を期待する。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	「ラッコルタ - 創造素材ラボ - 」の仕組み作り
事業実施者	NPO 法人 アーティスト・コレクティブ・フチュウ (ACF)、文化スポーツ部文化生涯学習課
事業目的	地域資源を活用した創造的学びの取組みを通して、大人や子供が新たな「独自の視点」を培い、だれもが自由に表現できる町を目指す。
事業内容	地域企業の部材を採取し、アーティスト主導のワークショップや成果展を実施する。その素材を市民が創造的学びに使える仕組みを作る。
事業目標	新たな視点をもたらす体験学習の機会を通じて、日常生活を改めて見つめ直し、モノ・コト・ヒトの価値ある循環を継続的にもたらす。

1 評価結論	<p>A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。</p> <p>ワークショップ等で参加者に創造的な学びの機会を提供することができた。市は団体が参加できそうなイベントや公共施設を紹介するなど他の主体との関わりに貢献したが、仕組み作りという、団体が掲げる長期的なビジョンの共有が十分にできていないように見受けられたため、今後の継続に向け、市の関わり方について工夫を期待する。</p>
2 事業について	市内の企業から出た廃材を使用するという点で地域にある資源を活かしながら、ワークショップごとに設けられたテーマに沿って、新たな視点をもたらす体験学習の機会を提供することができた。また作品展示会を通じて多くの市民に共有することができた。
3 協働の視点について	市は団体が使用できる施設や参加できる市内のイベントについて情報提供をするなど、ネットワークを活用し、行政の強みが活かされていたが、イベントの内容は団体が軸となって動いており、関係性としては、団体が主体となり市が支援するかたちでの協働に見受けられた。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	今後の具体的な取組みや継続性については未定であった。企業から廃材の提供を受けたほか、東京都や財団、公共施設など多様な主体と連携して事業を行うことができた。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	府中駅前スカイナードにおける市民参加の美化活動
事業実施者	act634 府中、都市整備部道路課
事業目的	府中駅周辺の顔となるスカイナードの美化活動を市民が主体となり企画運営をすることにより、良好な景観形成について、自分ごととして捉える市民を増やす。
事業内容	「スカイナードクリーン大作戦の実施」(一斉清掃)を実施する。 スカイナードに設置されている老朽化したプランターの植物の植替え及び維持する。
事業目標	スカイナードクリーン大作戦の実施

1 評価結論	S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。 明確な事業目標を市と団体が共有しており、市民の協力や周辺企業の理解を得て、多様な主体を巻き込みながら目標を達成することができた。また今後は他の助成金を活用した継続実施が確定しており、今後も継続的に協力をし、更により事業が実施できることを期待する。
2 事業について	「ふちゅピカクリーン大作戦！」(一斉清掃)のほか、「スカイナードにひまわりスポットを作ろう！」では種の植え付け、自宅での栽培、プランターへの植え付けをとおして体験してもらうことで、自分ごととして捉えてもらうことができた。
3 協働の視点について	企画自体は団体の持つノウハウや企画力が中心となっていたが、市は安全の面で助言を行ったり、公園緑地課や資源循環推進課といった連携ができそうな部署への橋渡しを行ったり、行政の強みを生かして協力することができた。実施後に参加者からのフィードバックを得る機会がなかったため、今後はアンケートを取るなど、協働の成果を測る手段があるとよい。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	駅周辺の商業施設など民間企業からも賛同を得られ、事業継続を希望する声があがるなど、市全体で地域課題を解決する気運の醸成に貢献した。市内の学校とも連携し、子どもの参加も多かったことから将来の協働の担い手の育成にもつなげることができた。こうした成果が認められたことで、令和5年度は団体が一般財団法人からの助成を得て主催することになっている。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	ヤギがつなげるまちづくり
事業実施者	新町小のたつと、市民協働推進部協働共創推進課
事業目的	循環型社会に貢献しながら、学校飼育動物の飼育環境を整えるとともに、地域コミュニティを活性化する。
事業内容	ヤギや小動物を介した地域交流イベントの実施やふれあいの場をつくり、色々な人が交流することで、地域コミュニティの活性化を促す。
事業目標	様々な主体と連携する仕組みづくりを行う。

1 評価結論	<p>C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。</p> <p>ヤギの活用をきっかけに、高齢者同士の交流機会の創出や災害時の避難方法の周知など、多数の目標があがっていたため、令和5年度も事業を継続するにあたっては、一つ一つのイベント等で達成したい目標を逐一市と団体が共有し、成果が得られるような手段を選択して実施することが期待される。</p>
2 事業について	ヤギや小動物とのふれあいイベントについては参加者から好評で、学校動物の存在や飼育の実態について知ってもらうよい機会になった。地域コミュニティの活性化や高齢者同士のつながりなど、ふれあいに付随して効果を期待していた点については、課題が残った。
3 協働の視点について	ヤギを中心にしながらも、参加者同士の交流や高齢者同士のつながりの増加、災害時の避難方法の周知など、目標が複数あることが特徴であり、協働するにあたって目標の共有が難しかったように見える。また、市の担当者が変わったことについて団体の理解が得られていなかった。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	令和5年度も継続する事業であるため、目標を双方で共有したうえ、高齢者同士の交流を目指すのであれば、高齢者向けの施設と協力して参加者の増加に向けた工夫をするなど、共有した目的に向けて事業を展開してほしい。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。